

ジュニア駅伝に向け出発

家族、関係者らを前に健闘誓う

第18回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競争大会（17日午前11時、紀三井寺公園陸上競技場スタート、県庁前ゴール／10区間、21.1キロ）が開催されるのを前に、那智勝浦町で15日、新宮市で16日に出陣式が行われた。

（森本晃介）



■那智勝浦町

堀順一郎町長（左）から激励を受ける＝15日、那智勝浦町役場

那智勝浦町チームの壮行会は15日、役場3階の議場で家族や学校関係者、役場職員が見守る中で行われた。堀順一郎町長が「町内の各小学校、中学校から選出された皆さんです。学校、那智勝浦町の代表として、自信と誇りを持ってレースに臨んでいただけたらと思う。目標に掲げている前回よりも良いタイムと順位に向け、一生懸命たすきをつなぎ、応援してくれる皆さんに感動を与えられるレースを」と激励した。役員、選手が一人一人紹介された後、寺本尚史監督が「今年のチームは、この5年間で小学生から中学生までバランス良く力の付いたチームだと思います。大会には、この中から2チーム出場します。参加してくれた選手皆さん、選手を支えてくれた家族の皆さん、指導してくれたコーチの皆さん、子どもたちを支えてくれた皆さん、スタッフの皆さん、11月からの3カ月間、本当にありがとうございました」と協力への感謝を述べ、選手がチームを「笑顔」や「和」と例えたことを紹介し、「駅伝は一人ではできないスポーツ。走者もサポートするみんなも、それぞれが役割を果たして、チームとしてのベストが出ると思います。選手皆さん一人一人を頼りにしています。笑顔で閉会式に臨みましょう」とあいさつ。

選手を代表し、生熊大空斗君（宇久井中3）が「私たちは那智勝浦町の代表として、チームワークを大切に、一本のたすきを全員でつなぎ、那智勝浦町に勇気と元気を与えられるよう、精いっぱい走り抜くことを誓います」と抱負を述べ、最後に記念品や激励品が贈られた。

那智勝浦町選手団の皆さん



■新宮市

大会への決意を語る宇恵惟織君＝16日、新宮市福祉センター

新宮市チームの出陣式は16日、市福祉センターで家族、学校関係者らが応援に駆け付ける中で開かれた。田岡実千年市長がこれまでの努力をたたえ「各学校、また新宮市の代表として約2カ月間、週4回の厳しい練習を重ね、心も体も成長したと報告を受けています。どうか練習の成果を十分に発揮して、素晴らしい成績を挙げていただければと思う。皆さんの走り市民の皆さんに感動を与えられるように、頑張ってください」と激励した。来賓、スタッフ、選手一人一人を紹介された後、成見雅貴監督が「新宮市のセッケンである7番を目標しながら、それぞれの区間でベストタイムが出る走りができれば」と決意を語り、正規チーム、オープンチームの順にオーダーを発表。選手を代表し、宇恵惟織君

（城南中3）が「多くの皆さんに激励を頂き、ありがとうございませう。2カ月間の練習の成果を十分に発揮し、皆さんに感動を与えられるよう、チーム全員でたすきをつなぎ、ベストを尽くして頑張つてきます」と健闘を誓った。最後に団長の速水盛康教育長が「選手からは、成見監督をはじめとする指導者、スタッフと一つになって2カ月間で培ってきた力、目には見えない心の強さを感じられると、今朝の表情を見て感じました。30人の子もたちが新宮市の代表として走るといった気持ちを持たずき込めて、それぞれがオープン、サポートチームも含めて一つになり、明日に立ち向かってもらいたい。そうすれば、結果はおのずと出てくると思う。皆さんは新宮市の代表として走るんだという自信を持ってほしい」と期待を寄せた。

新宮市選手団の皆さん

